

鷹取山自然観察会会報

2022.12.11 NO.38

トラストみどり財団による植樹の成長記録

1 植樹場所

鷹取山公園内では、2020、2021年にかけてわがトラストみどり財団の助成金により植樹をしてきました。2020年にはコナラ、クヌギを中心にガマズミ、エゴノキ、ムラサキシキブなど75本を植樹しました。この場所は、右図の①地点です。2021年にはコナラ、クヌギ、ガマズミ、キブシなど計50本の植樹をしました。植樹した場所は、図の③地点です。この他、2019、20年に市の許可を得て、ドングリから育てたコナラ、クヌギなど50本ほど植樹しています。植樹した場所は、別図の②地点です。

2 苗木の成長

植樹してから2年以上が経過して苗木も少しずつ育ってきています。今年11月に各地点別に樹高を測定した結果は、表1のとおりです。コナラ、クヌギなどは植栽した時には30cmほどの苗木でしたが、3mに達する木もありました。

①地点はミズキが多く、日当たりの悪い場所でクヌギ、コナラの成長は遅く、表に示すように樹高の平均は82cmです。日当たりが多少良い場所では160cmに育っているものもあります。この場所は、エゴノキ、ガマズミ、コムラサキは日陰でもよく育ち、特にエゴノキが一番成長が早い。

②地点は、3か所のうちで一番日当たりが良く、クヌギ、コナラの成長が早い。ここでは、2019年に試験的に10本ほどコナラを植栽しています。これらの木は2mを越すほどに成長しています。ここまで育つと自力で育ってくれると思います。

③地点は、比較的日当たりが良く、順調に成長しています。一方、ここではカラムシ、ヨモギ、秋にはアシボソなど背丈のある草本とオニドコロ、クズ、ヤブマメ、ノササゲなどツル植物が繁茂するため、定期

図1 植樹場所



表1 各地点別の樹高

| | ①地点 | ②地点 | ③地点 |
|---------|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 20年 | 19,20年 | 21年 |
| クヌギ・コナラ | 82 cm/45 (30-160) | 146 cm/37 (50-300) | 70 cm/32 (40-120) |
| エゴノキ | 188 cm/7 (130-220) | 150 cm/2 (120-180) | — |
| コムラサキ | 130 cm/12 (120-200) | — | — |
| ガマズミ | 113 cm/10 (80-160) | — | 87 cm/7 (40-120) |
| キブシ | — | — | 110 cm/4 (80-140) |
| ネムノキ | — | — | 130 cm/4 (120-140) |

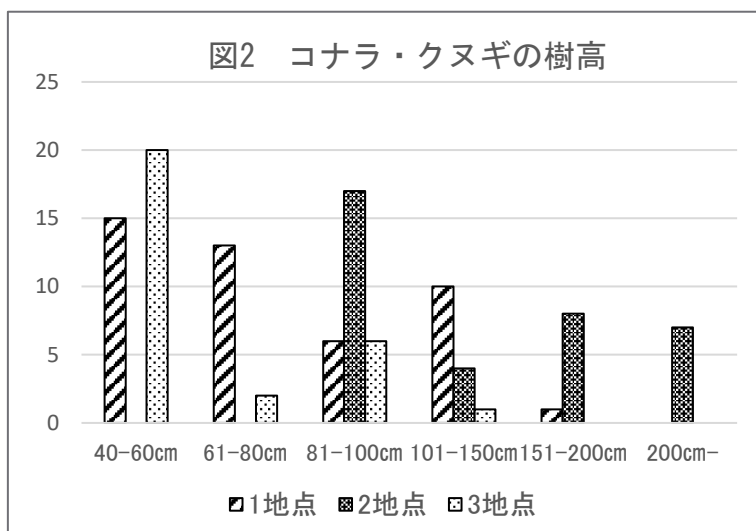
注1) m/nとは 平均樹高(cm)/本数

注2) カッコ内の数字は、樹高の最低、最高を表す。

的な草刈りを行ってきました。クヌギ、コナラは平均樹高 70 cmほどに成長しています。

図 2 は地点別のクヌギ、コナラの樹高別の割合を示しています。日当たりなどで成長の違いはあるものの、②>①>③の順となっています。①地点の日陰では 40-60 cm の木も多いが、100 cm を越す木もあります。③地点は大半が 40-60 cm ですが、日当たりが良い場所では大きく成長してくれると思います。

まだしばらくは、カラムシなどの定期的な草刈りが必要です。来年も維持管理よろしくをお願いします。



巣箱の掛け替え —令和4年11月—

1. 巣箱の掛け替え

当会では 2013 年から野鳥の保護を目的で毎年巣箱掛けを行っています。2013年に8個、2014年に9個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。

現在 16 個の巣箱が掛かっていて、毎年、巣箱の掃除及び利用状況を調べ、再度巣箱掛けをしています。

今年は 11 月 18 日に鷹取山公園に会員有志 7 名が集まり、午後 12 時まで巣箱の掛け替え作業を行ったので報告します。

当日は 2 班に分かれて、巣箱の利用状況を調べ、巣箱の中を掃除し、再び木に掛けました。巣箱の位置は地面から 2~3 メートルの高さで、周囲に枝がなくて見通しがよい場所とした。天敵のヘビなどに侵入されにくい場所を選定しています。

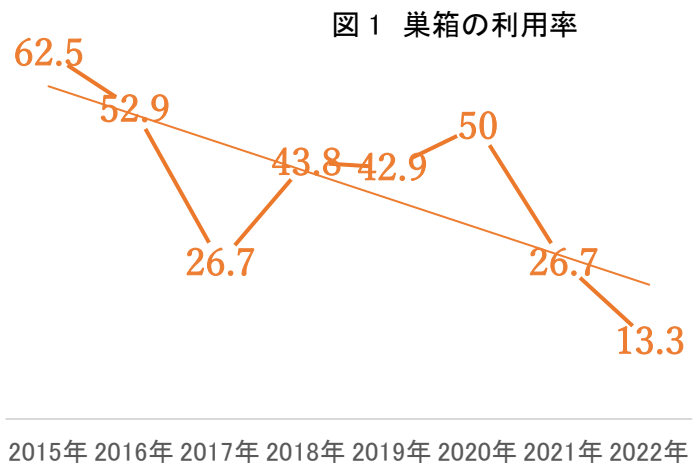


写真 1 巣箱の設置

2. 利用状況

今年の巣箱の利用状況は、鷹取山北側では 6 個のうち利用は 1 個でした。摩崖仏側では 10 個のうち 1 個が利用されていました。今年の利用率は 13.3% (2021 年 26.7%、20 年 50%、19 年 42.9%、18 年 43.8%、17 年 26.7%、16 年 52.9%、15 年 62.5%) で例年より低かった。他の地域の巣箱利用状況などを調べてみると 30~50%程度です。

今年の利用率は 13.3%と過去最低でした。毎年、利用している巣箱も利用していませんでした。2015 年からの利用率の変化をグラフにしています。これで見ると年々利用率が右肩下がりになっています。なぜ、利用率が下がっているのかわかりません。ひょっとしてシジュウカラの数が減ってきているのでしょうか。



3. 巣箱の中

巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認している。写真 2 では巣の材料はコケが主体です。巣穴は直径 3 cmにしてあるので利用したのはシジュウカラ、ヤマガラのいずれかと思われます。小鳥の巣として使われたと思われる苔が出てきました。

写真 3 では巣箱の中にセグロアシナガバチが 3 匹休眠中でした。すぐには飛び立せず、3 分ほど体を温めてから逃げていきました。



写真 2 巣箱の巣材



写真3 セグロアシナガバチ

なお、今年は巣箱の数を 11 個に減らしました。北側の巣箱は利用率が低いため廃止しましたので

報告します。来年は、1 班で作業ができると思います。

また、来年も鳥たちが巣箱を利用してくれることを願っています。会ではモニ 1000 里地調査として 12 月から第 1、3 金曜日に鳥類調査を行っていきますが、巣箱の利用状況も継続して観察していきます。

巣箱の掛け替えに参加した人

本多、中村、市川、三科、北村、星野、菅沼（順不同、敬称略）

お知らせ

鳥類調査とバードウォッチングを開始します

鳥類調査に参加しませんか。当会では 2014 年から会員有志で鳥類調査を開始しました。2018 年からはモニタリングサイト 1000 里地調査として、調査区間など変更しました。

調査期間は比較的観察しやすい越冬期（12 月～3 月まで第 1、3 金曜日）、繁殖期（5 月、6 月の間 3 日間）の 2 期間で調査を行っています。

鳥の名前がわからない方でも大丈夫です。散歩の途中で聞こえる鳥の鳴き声に関心を持つといいですね。

越冬期の調査の集合場所は、午前 9 時 30 分 西友鷹取店前 調査は約 2 時間で終了します。なお、繁殖期の調査開始は早朝 6 時 30 分開始になります。こちらは少し早起きしてください。



鷹取山の植物画 ～ボタニカルアート～

今年、湘鷹みんなの部屋で鷹取山の植物のボタニカルアートの展覧会が開催されました。湘南鷹取 2 丁目に住んでいた内田彰さんの作品展です。

内田彰さんは 1920 年生まれ、鷹取山周辺で多くの山野草など植物画を描いてきました。驚くのは退職後に絵を学び、その才能が開花して、素晴らしい多くの作品を描いてきたことです。日本ボタニカルア

ート協会に所属し、よみうり日本テレビ文化センター横浜で植物画の講師など務められたそうです。その他、絵本、「私の植物画」など著書が残っています。2014 年に 94 才で他界されましたが、今回、ご家族の了解を頂き、季節ごとの作品の一部を一年間ご紹介いたします。

今回は晩秋から初冬にかけて見られる、ゴンズイ、

ガマズミ、クサギの実がいきいきと描かれています。



ゴンズイ 鷹取山では珍しい木本。花より実がきれい



ガマズミ 鷹取山では普通にみられる。
春に白い花が咲く。



クサギ 鷹取山では普通にみられる。盛夏
に花が咲き、花も実もきれい。

この湘南鷹取団地が開発される際、数多くの野草が減ったそうです。私が移り住んで25年余り経った今も年毎に減ってゆくを見て胸が痛みます。

この植物画はそれらへのレクイエムのつもりです。（内田彰）

俳句

会員の小島常義さんの俳句です。自然観察会に参加した際に作った俳句を投稿していただきました。その中から三句紹介します。

十二月のテーマ
「落ち葉の種類を見分けよう」
磨崖仏くぬぎの落葉見付けたり

二月のテーマ
「冬鳥の観察と冬芽を観察しよう」
水木の冬芽故郷くの繭玉よみがえ甦よみがえる
鬼縛おにしばりの花黄緑に咲きにけり



冬の磨崖仏



ミズキの冬芽



オニシバリの花

鷹取山の絶滅危惧種（植物相）

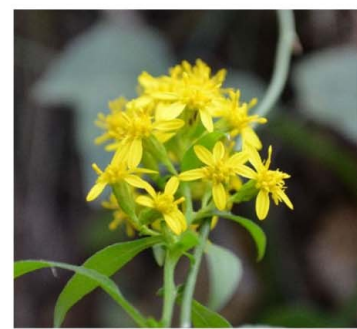
当会では、2013年から毎月植物相調査を行っていて、その結果は、毎年会報の6月号で報告しています。鷹取山の植物相を長期的にみると絶滅する種も多くみられ、その原因は、生育場所の減少、植生の変化、過度の草刈りなどが考えられます。

鷹取山は住宅地に近く、身近なハイキングコースとして、利用者は多い。このため、歩道近くのソデ群落の植物相は踏みつけられたり、過度に草刈りが行われたりして、姿を消すものもあります。今年も数の少ないサラシナショウマ、ワレモコウ、ツルニンジン、ツリガネニンジンなどが刈り取られたり、花芽が切り取られたり、被害がありました。

また、鷹取山公園で花壇を整備するために自生のガガイモ、イシミカワなどが刈り取られて姿を消しています。そのあとにアサガオなどの園芸種が植えられているのは残念としか言えません。ガガイモは

アサギマダラの幼虫の食草です。同様にガガイモ科のオオカモメヅル、ココモメヅルも減少しています。原因は判りませんがセンボンヤリも少なくなっています。数の少ないシュンランは、毎年花芽が採られていて、花をみるのが少なくなりました。鷹取山の名がついている別名タカトリラン（タシロラン）はずいぶん少なくなりました。ヤブカンゾウ、クサボケ、クルマバナも、今は絶滅しています。ここで取り上げたものは一部ですが、このままでは多くの種が姿を消してしまうのではないのでしょうか。

鷹取山自然観察会では、昨年「鷹取山のマナー」の看板と「鷹取山の自然を大切に」のリーフレットを作成し、鷹取山公園に配架して啓発活動をしています。今後も、貴重植物の保護活動として、保護柵の設置と自然保護の啓発活動を行っていききたいと思います。（文責:本多）



上左から サラシナショウマ、ガガイモ、イシミカワ、ツリガネニンジン、ワレモコウ、ツルニンジン、シュンラン、カシワバハグマ、センボンヤリ、ヤブカンゾウ、クサボケ、アキノキリンソウ、タシロラン、オオカモメヅル、クルマバナ

ハチの巣の帰趨

鷹取山を歩いていると、ハチの巣を見つけることが良くあります。5月には、枯れたカラスザンショウの木の洞にニホンミツバチの巣があるのを見つけました。この巣のミツバチは、8月には順調に増えているようでした。9月の初めに巣の入口近くでミツバチが密集していました。熱殺蜂球のようでした。9月の半ば、ニホンミツバチは激減していました。10月の半ばにニホンミツバチの姿はなく、オオスズメバチが洞から出てきました。ニホンミツバチの一家はオオスズメバチの餌食になり、全滅したのではないのでしょうか。

摩崖仏の顔の近くに、キイロスズメバチの巣を見つけたのは8月の半ばでした。9月にはキイロスズメバチが活発に活動している様子が見られました。10月には立派な巣になりましたが、ハチは少なくなっていました。11月になるとハチの見られない巣が残されていました。スズメバチの仲間の巣は基本的には再利用されることはないそうです。危険な高所で巣を採集するのは難しいとのこと。

(三科 清高)

キイロスズメバチの巣



2022/08/12



2022/09/09



2022/10/12



2022/11/02

ニホンミツバチの巣



2022/5/10



2022/8/19



2022/9/4



2022/9/16



2022/10/12

鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP : 鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>